

2026年4月10日

オフィスユニゾン 三枝克之

【事業テーマ】

台湾&日本共同出版企画書籍

「沖縄×台湾 衣食住行記 “チュラネシア”ボーダレス旅行ノート」取材制作

<成果物>

『台湾&沖縄 チュラネシアへの旅  
亜熱帯カルチャーリズム』

三枝克之・著

リトルモア

2026年3月18日発売



【事業計画要旨】

- ◎ 沖縄と台湾。間に国境を挟みながらも非常に近い距離にあり、亜熱帯～熱帯モンスーンの自然や気候、のんびりした風土、親切的な民族性など、似ているところがたくさんあることを、本土の人はあまり知らない。沖縄も台湾も「蓬莱島」（＝不老不死の薬のある仙郷）と呼ばれた過去があり、「美ら島／美麗島」の異名があり、かつて大陸から「琉求」とひとくくりで呼ばれ、中国、日本、アメリカに翻弄されてきた。兄弟島といっても過言ではないこの二つの島を、あえて国境を外して、一つの文化エリア、観光エリアとしてとらえ、その魅力を探り、発信していきたい。
- ◎ その第1歩として、沖縄と台湾の文化をさまざまな面から考察する書籍の刊行を計画している。衣食住にまつわる事柄や、独自の音楽、芸能、工芸に触れ、雄大な自然を体験し、二つの島を結びつける活動をしている人々を訪ねて得た知見を、約100項目に分けて綴ってゆく。両島の共通点や違いを探りながら、文化の原郷や未来を考える内容としたい。同時に、沖縄×台湾エリアを「チュラネシア」と仮に名付け、ボーダレスな旅に誘うような書籍を目指したい。
- ◎ 日本や海外であまり知られていない、沖縄と台湾の独自の文化や、あるいは大国に翻弄されてきた両地の歴史や境遇を知るための格好の入門書としたい。また沖縄人にとっても、台湾人にとっても、互により親密さを感じるための最適なテキストになればと思う。
- ◎ またこの企画は、「隣ジマ」をよく知ることで、沖縄県民の意識を「日本の中の沖縄」から「アジアの中の沖縄」という発想に切り替える。そこから新たなマーケットやビジネスチャンスも沖縄の中から生

まれてくるように思う。沖縄と台湾を一つのエリアとしてプロモーションすることは、もちろん観光の分野でもっともニーズが高く、大きな可能性を持つプランとなるだろう。

- ◎ 台湾の出版社との共同出版というのは初めての試みだが、これを個人として実現できれば、出版に限らず、観光や文化、産業面でも同様に、台湾との共同事業を試みる企業や個人が続いてくるだろう。

### 【事業者プロフィール】

- ◎ 1964年、兵庫県生まれ。東京でのレコード会社勤務、京都での出版社勤務を経て、1995年よりフリーランスの出版編集者となり、2001年より執筆・著作活動も始める。大阪総合デザイン専門学校、京都造形芸術大学で非常勤講師を務めたことも。企画編集作品は、トータル120万部のベストセラー『空の名前』『宙の名前』『色の名前』3部作（角川書店）や、宮崎あおい主演で映画化もされた『初恋』（リトルモア）など多数。著書にテレビ番組化された万葉集のポップス語訳『恋ノウタ』（角川文庫）などがある。近著は2019年9月発売の『時の名前』（角川書店）。
- ◎ 2003年より沖縄県に住み、『BRUTUS』『Hanako』『& Premium』（以上、マガジンハウス）、JTA 機内誌『コーラルウェイ』などで沖縄の観光やカルチャーに関する記事を執筆。また2005年には宜野湾市普天間に「カフェユニゾン」を開業。「沖縄文化食堂／沖縄文化酒場」をキーワードに、飲食や展示、物販、イベントなどを通して沖縄を代表する文化発信地となる。（2023年末に閉業）
- ◎ 台湾へは2016年より、年に4～5回ペースで訪れ、撮影・取材や民芸品の買付、現地の人たちとの親交を重ねる。2017年の「ユニゾンの台湾博覧会」開催をはじめ、大阪の阪神百貨店での台湾フェアの企画、宜野座村の「僕たちの台湾展」など、多くの台湾関連イベントにも参加。2019年の沖縄県立博物館・美術館の「台湾展」では展示協力の他、ミュージアムショップでの台湾グッズの販売も担当。OCVB主催のセミナー等で「沖縄と台湾」について講演なども行っている。

### 【助成内容】

- ◎ 2020年末刊行予定の上記出版物制作における、離島を含む沖縄取材と台湾取材に関しての旅費や取材経費、編集制作にあたっての人件費等の費用について、〈おきぎんふるさと振興基金〉の文化部門に50万円の助成を申請し、第30回2020年度分の助成認証を受ける。

### 【事業推移】

- ◎ 2018年：かねてより薬籠中だった企画を本格的に始動。リトルモアでの出版が決定する。
- ◎ 2019年：台湾との共同出版について聯経出版と合意。スポンサー、タイアップ先などを検討、交渉。
- ◎ 2020年1～2月：沖縄県台北事務所とのタイアップ、スポンサーとなるホテルなど決まり、〈おきぎんふるさと振興基金〉の助成を申請。3月からの取材開始を計画する。
- ◎ 2020年3月～2023年：パンデミックにより、台湾や沖縄離島は渡航困難となり取材断念。2022年以降の渡航可能後もコロナ禍の影響を受け、経営する〈カフェユニゾン〉の運営への専念を強いられる。
- ◎ 2024年：〈カフェユニゾン〉を閉業し、本企画をリスタート。ただし、コロナ前に組んでいた台湾との共同出版、スポンサー、タイアップなどは状況の変化を受けて白紙となった。そのため、取材予算を立て直し、日台共同出版の形ではなく、まずは日本語版を優先して出版することに。
- ◎ 2025年：1年かけて本格的に取材、執筆、編集、デザインを進める。
- ◎ 2026年3月：書籍が完成し、3月18日に全国発売を迎える。

【事業成果物】

書名 : 台湾&沖縄 チュラネシアへの旅 亜熱帯カルチャーリズム

<書誌>

著者 : 三枝克之

出版社 : 株式会社リトルモア

アートディレクション: 岩淵恵子 (イワブチデザイン)

イラスト・イラスト地図: ヤマサキタツヤ

仕様 : A5 判変形 並製 (天地 224mm x 左右 150mm x 東幅 21mm) / 256 ページ / 492g

発売日 : 2026 年 3 月 18 日

発行日 : 2026 年 3 月 22 日

ISBN コード : 978-4-89815-620-9 / C0036

定価 : 3,740 円 (本体 3,400 円+税)

<https://littlemore.co.jp/isbn9784898156209>

<紹介文>

チュラネシアへようこそ。

Welcome to Churanesia! メンソーレ、チュラネシア! 歡迎來到、美麗群島!

台湾+沖縄=チュラネシア!

“美ら (チュラ)” と “ネシア” (ギリシャ語で「島々」の意味) で “チュラネシア”

気候、歴史、文化……地理的に近いだけでなく、台湾と沖縄には、さまざまな側面で共通点がいっぱい。

おおらかで美しいきょうだいのような2島から国境を外し「チュラネシア」と呼ぼう!

台湾+沖縄=チュラネシアをひもとく大百科、誕生です!

食文化、工芸や芸能、言語、街並、歴史、自然……

8テーマ100項目にわたるコラムと写真が満載!

フルカラー・256ページの大ボリュームの一冊!

読めば、行きたくなる。行けば、もっと知りたくなる。

この一冊からまったく新しいボーダレスな旅が始まります!

<帯コメント>

「あなたの隣のアナザーワールドへ。身近な冒険への招待状!」

小倉ヒラク (発酵デザイナー)





<ページ見本>



巻頭/チュラネシアMAP



Introduction



1 チュラネシアの風土/Topic01 亜熱帯モンスーン気候



2 チュラネシアの食文化/Topic21・22 豆腐・腐乳と豆腐よう



2 チュラネシアの食文化/チュラネシアの食の風景



3 中華圏文化/Topic45 春節と清明節



History Guide 4/牡丹社事件



6 チュラネシアの工芸と芸能/チュラネシアの伝統芸能

## 【出版後の反響】

■大阪の阪神百貨店梅田本店 1F：食祭テラスにて、2026年3月11～16日に、

本書の内容を立体化したフェア「台湾&沖縄 チュラネシアへの旅 亜熱帯フードトリップ」を開催。

<https://web.hh-online.jp/hanshin/contents/str/20260311.html>

\*先行発売した本書は、会期を1日半残して100冊を完売。

\*発酵デザイナーの小倉ヒラク氏、国立民族学博物館教授の野林厚志氏、台湾に詳しいイラストレーターのヤマサキタツヤ氏、旅する料理研究家の佐々木敬子氏とトークイベントを開催。

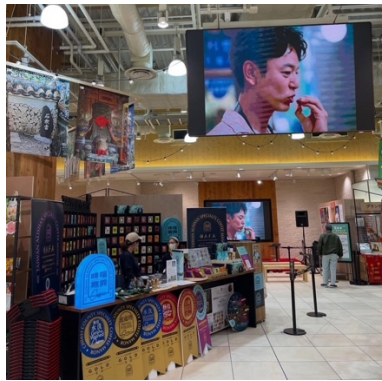
\*フリーライターのスズキナオ氏によるインタビュー記事連載「チュラネシアってナンだろう？」掲載。

<https://kotosara.net/magazine/churanesia/>

\*台湾原住民アーティストのサウヤーリはじめ、宮古民謡、沖縄民謡、奄美民謡のライブも開催。

\*台湾と沖縄の飲食&物販ブースが多数出店。大いに賑わい、多くの来場者が「チュラネシア」を体感。

## <会場風景>



■東京・神保町の大手書店、東京堂書店では発売後の週間総合売上ベスト 3 位→1 位→2 位と推移中。  
ジュンク堂書店那覇店でもテーブルで大きく展開。



東京堂書店週間ランキング



東京堂書店カウンターのパネル



ジュンク堂書店那覇店の平積み

#### ■トークイベント開催決定

- \*4/16 (木) 18:30~@東京堂書店 作家・声優の池澤春菜さんと
- \*4/17 (金) 18:30~@発酵デパートメント下北沢 発酵デザイナーの小倉ヒラクさんと
- \*4/20 (月) 19:00~@誠品書店日本橋店 単独トーク
- \*5/2 (土) 15:00~@ジュンク堂書店那覇店 編集者・エッセイストの新城和博さんと

#### ■ラジオ出演決定

- \*4/13 (月) ラジオ沖縄「ライフヒストリー 還暦ラジオ」パーソナリティ/本村ひろみさん
- \*4/15 (水) 文化放送「長野智子アップデート」パーソナリティ/長野智子さん
- \*4/16 (木) J-WAVE「MIDDAY LOUNGE」ナビゲーター/ジョン・カビラさん

■誠品書店日本橋店で4月中旬から選書フェア「『台湾&沖縄 チュラネシアへの旅』の副読本」開催。

#### 【今後の展開】

- ◎書評、記事は今後順次、新聞・雑誌・WEB媒体などで掲載されていくと思われる。琉球新報は決定。
- ◎パブリシティの露出と連動し、東京堂書店、誠品書店、ジュンク堂書店那覇店以外にも、他の多くの大型書店での大展開を図りたい。
- ◎台湾の大手出版社・聯経出版と台湾版の発売について実現化に向けて具体的な交渉中。
- ◎韓国の大手出版社・四季節出版に韓国語版の発売を提案中。

#### 【現時点での手応え】

- ◎出版関係者、知識人・文化人、また一般読者からは、「台湾や沖縄好きにとってはバイブル」「台湾と沖縄を理解するための必読の教科書」「これを持って、沖縄と台湾へ旅行したい」といった声が多く寄せられており、当初の事業計画で意図した主旨は確実に伝わる書籍になったと考えている。
- ◎また沖縄を代表する経営コンサルタントの方からは「沖縄の県産品や文化を日本本土やアジアで売るための必要な情報が満載されたマーケティング本」との評をいただいた。台湾政府が運営する<台湾観光協会>や、沖縄県内の旅行業界の大手企業経営者からも、すでに本書をベースにしたプロジェクトや講演の相談が来ている。台湾との共同プロジェクトの推進も含め、沖縄の文化や観光、あるいは産業面における視野を広げることで、その発展に寄与できるよう活用していきたい。